

情報エレクトロニクス需要拡大で飛躍する日本株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 最高値更新続く日本の半導体関連株

情報エレクトロニクス需要の拡大を背景に、日本の関連株を物色する動きが強まっています。世界的な生成AIの本格普及とともに半導体市況の先行きにも明るさが増すなか、日本の半導体関連株の最高値更新が続いています（右上図）。こうした動きは日経平均株価を押し上げる材料になると考えられます。それは日経平均株価の寄与度上位5社のうち、半導体関連株は4社あり、同構成比率はその4社だけで20%程度（9日時点）となっているためです。

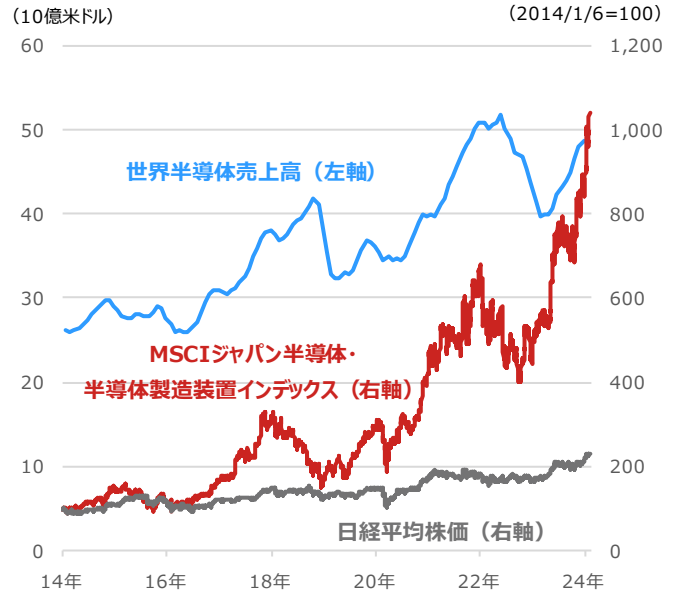
SIA（米半導体工業会）は5日、今年の世界の半導体売上高が前年比13%増の約6,000億米ドルに達するとの見通しを示しました。半導体の用途がPCやスマホだけでなく、生成AIサーバーや自動車などにも拡大しており、半導体市場の長期見通しの明るさは、日本株にとってポジティブ材料といえます。

ポイント② テクノロジー需要増で日本株は飛躍へ

投資家の期待が高まっている生成AIの市場規模は、23年の670億米ドルから32年には1兆3,000億米ドル超と、20倍弱に拡大するとみられています（右下図）。また、ガソリン車と比べ3～5倍の半導体が必要とされるEV市場の拡大が見込まれていることも、日本の関連企業にとってプラス材料といえます。世界のEV販売台数は38年には23年比で約5倍となる6,921万台にまで拡大する見通しです（同図）。

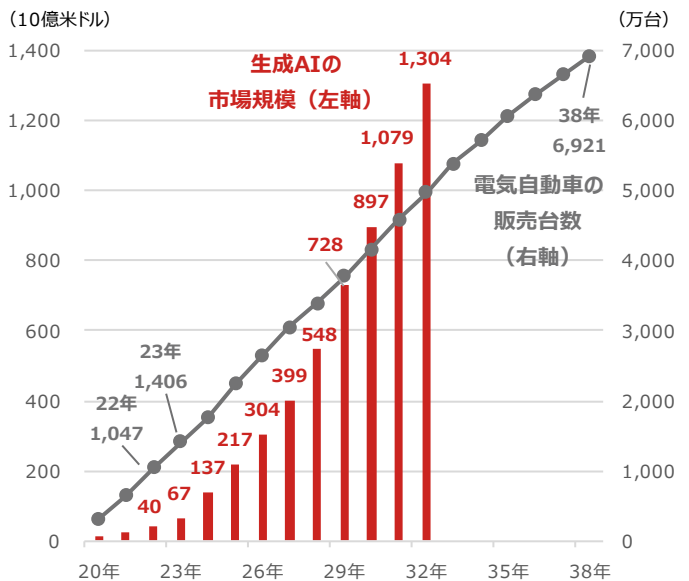
EVは半導体だけでなく大量の電子部品も必要とされることから、この分野で強みを持つ日本企業の活躍が期待できそうです。世界的なテクノロジー需要の拡大が鮮明となるなか、その需要をしっかりと取り込んでいる日本企業は数多く存在しています。その意味では情報エレクトロニクスの需要拡大は日本株が更なる飛躍を遂げる原動力となりそうです。

MSCIジャパン半導体・半導体製造装置インデックスと日経平均株価・世界半導体売上高



期間：（世界半導体売上高）2014年1月～2023年12月、月次
（その他）2014年1月6日～2024年2月9日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

生成AI（人工知能）の市場規模実績・予測とEV（電気自動車）の販売台数実績・予測



期間：（生成AIの市場規模）2020年～2032年、年次
（電気自動車の販売台数）2020年～2038年、年次
・市場規模・販売台数予測はBloomberg Intelligence、BloombergNEF
・生成AIの市場規模の数字は売上高ベース
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。